

FUJILLOY

東証プライム (6167)

世界の基幹産業を支えて75年
富士ダイス株式会社

超硬耐摩耗工具・金型のトップシェア 富士ダイスの事業と成長戦略



2025年3月

本日覚えていただきたい3つのポイント

1. 世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在
2. ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」
3. 成長への道筋と株主還元策

01

世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在

会社概要（2025年3月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,106名（2024年3月期末時点、連結）



ものづくりを支える富士ダイスの製品



上記以外にも、富士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでものづくりを支えている

代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

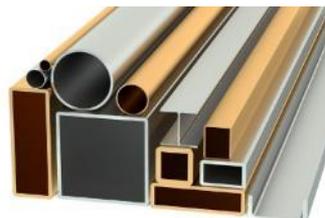
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



ガラスレンズ成形用金型

最終製品例



監視カメラ

カメラレンズ

自動運転用カメラセンサー

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

最終製品例



自動車・各種機械用部品

当社製品



高圧工具

最終製品例



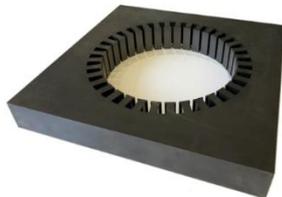
人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

成長分野と富士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・データセンター

電動・自動走行車の部品や半導体の製造、データセンターの構築に、当社の工具・金型・素材が使用されている



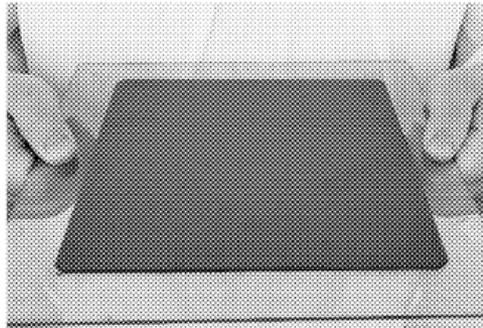
成長分野と富士ダイスの関係

カーボンニュートラル（脱炭素）

今後、需要の拡大が予想されるグリーン水素の製造装置向けニッケル製電極を開発

- 水素を製造する際に電圧を従来比20%削減
- 超高圧の合成技術を活かして触媒を開発し、粉末冶金技術でニッケル中に触媒を混ぜ込み電極化

富士ダイスがニッケル電極



富士ダイスが開発したグリーン水素向け電極

装置向け27年商品化

5日に東京ビッグサイトで開催する工作機械の展示会「日本国際工作機械見本市（JIMTOF2024）」で披露する。

国内外でカーボンニュートラル（CN）、温室効果ガス（GHG）排出量実質ゼロに向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見込まれる中、グリーン水素はCNの有力技術になると目される。

富士ダイスは、水素を製造する際に電圧を従来比20%削減するニッケル製の電極を開発した。電力の使用を抑えられ、また貴金属を使用していないために環境負荷が低いという。主力事業の超硬合金製造の粉末冶金技術などを応用した。再生可能エネルギー電力を使った水の電気分解によるグリーン水素の製造装置向けに、2027年までの商品化を目指す。

グリーン水素 電力抑え製造

富士ダイスが開発した電極「PMEII写真」は従来のニッケル電極に比べて、低い電圧で同じ量の水素を発生できる。ニッケル中に触媒を混ぜ込んだ構造を採用し、表面積を大きくして性能を高めた。

超硬合金の製造に求められる粉末冶金技術と超高圧の合成技術と触媒の開発に生かす、掛け合わせることで電極にした。触媒と電極化の関連で2件の特許を取得した。

【2024年11月5日付「日刊工業新聞」】

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

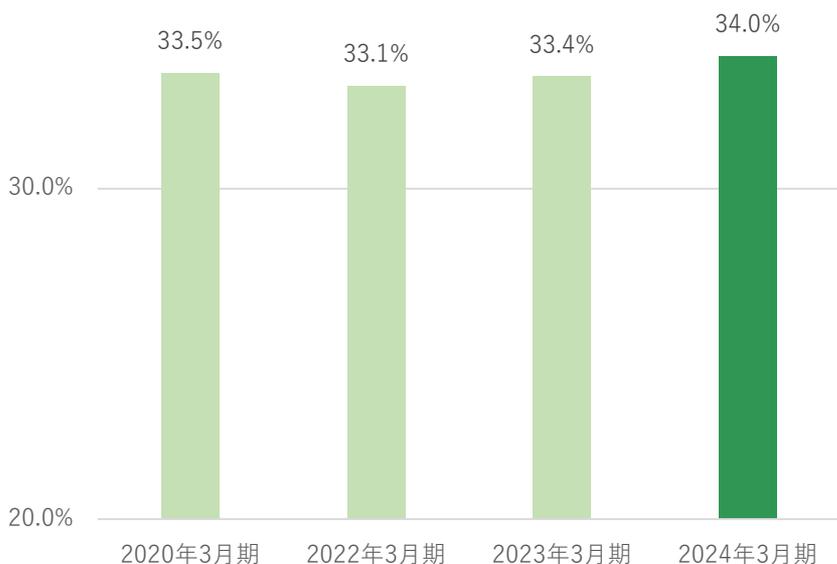
02

ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

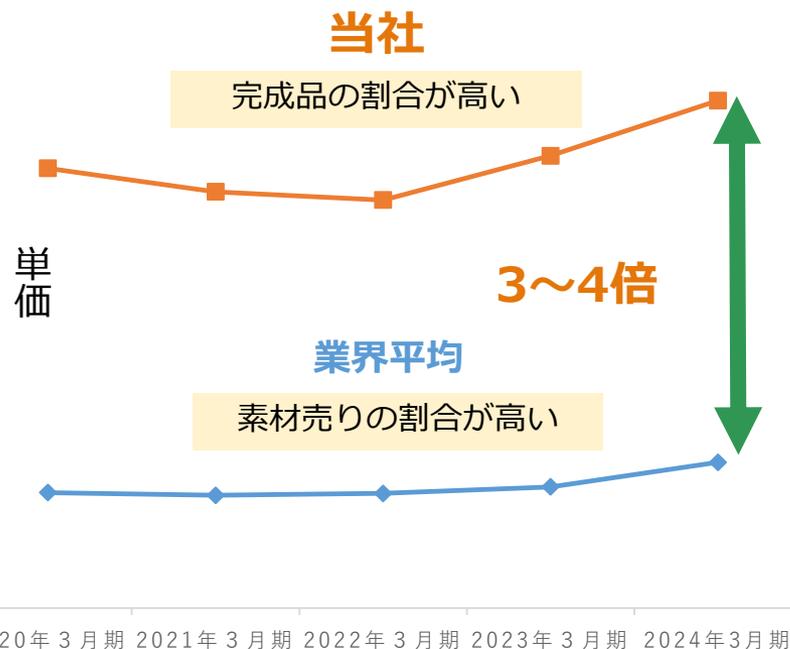
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は長期に亘り、**トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

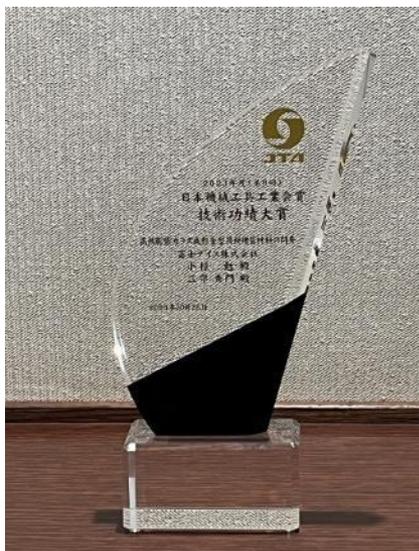
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



高い評価を受ける素材開発力

日本機械工具工業会賞において最高栄誉の「技術功績大賞」 および「環境特別賞」を受賞

- 日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業会賞」において、「高熱膨張ガラス成形金型用新硬質材料（フジロイTR05/TR30）の開発」が最高栄誉の「技術功績大賞」を受賞
- さらに、当社の近年の廃棄物削減、再資源化率の向上の取り組みが評価され、「環境特別賞」を同時に受賞



【技術功績大賞】



熱による寸法の変化量をガラスと同程度の従来比2倍に引き上げることでプレス成型時の割れを防ぎ、熱膨張係数が大きいガラスレンズの安定的な量産を可能に。

【受賞製品「フジロイTR05/30」】



【環境特別賞】

高い評価を受ける素材開発力・加工技術力

2023年 第66回十大新製品賞 において 「モノづくり賞」を受賞

- 「高熱膨張ガラス成形用新硬質材料【フジロTR05】」が、日刊工業新聞社主催の「2023年 第66回十大新製品賞」において「モノづくり賞」を受賞。
- 日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業賞」における「技術功績大賞」に続く受賞となった。



「2024年度 (第8回) 精密工学会 ものづくり賞」において 「最優秀賞」を受賞

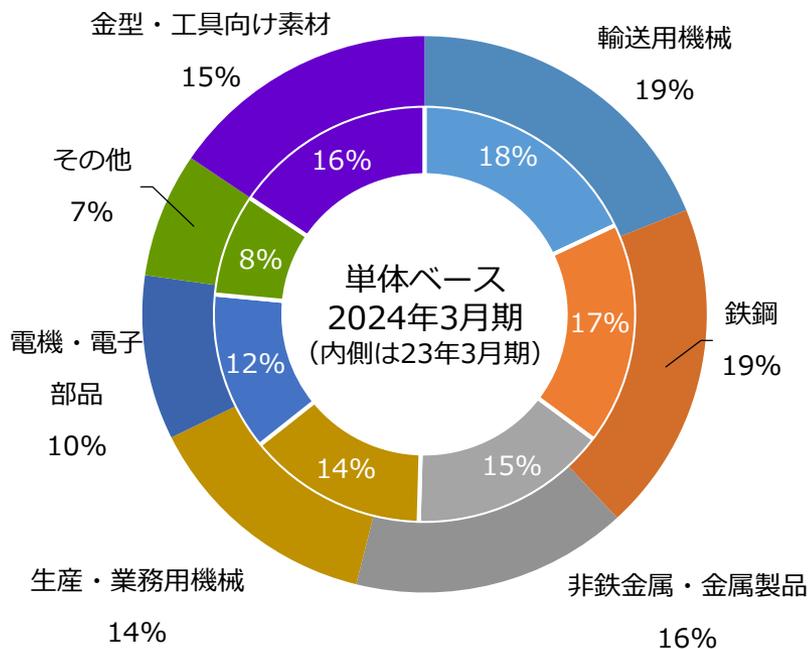
- 【フジロイ TR05/TR30】の開発および超精密加工技術の確立が評価され公益社団法人精密工学会主催の「2024年度 (第8回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。
- 「2023年度日本機械工具工業会賞」における「技術功績大賞」、「2023年 第66回十大新製品賞」における「モノづくり賞」に続き、**3度目の受賞**となった。



受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎のカスタムメイドの受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は約3千社、業種も幅広い
特定の業界動向に影響されない安定性が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点 (2024年9月末時点)】

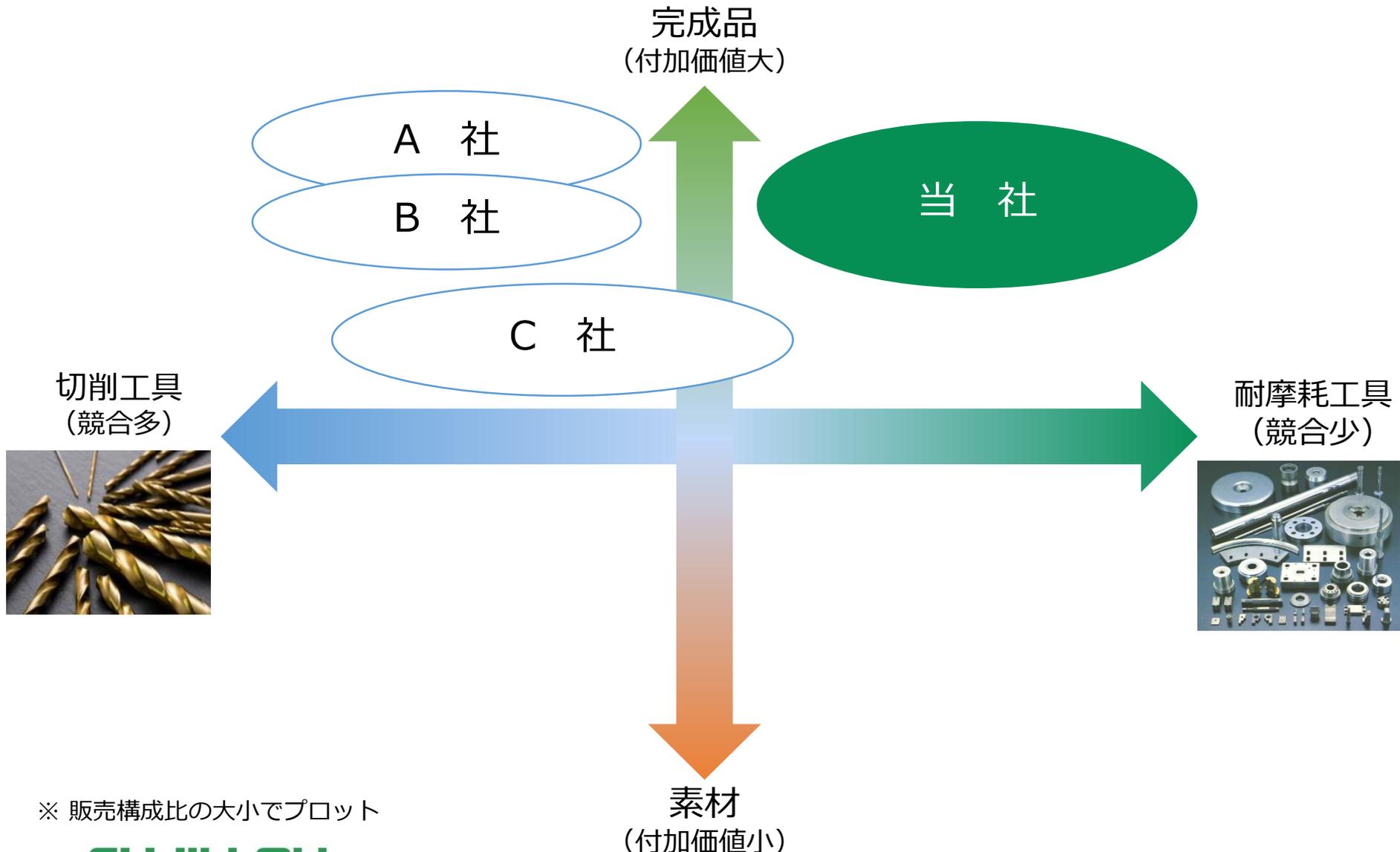
【国内】

- 生産・営業拠点 5ヶ所
- 生産拠点 2ヶ所
- 営業拠点 5ヶ所

【海外】

- 生産・営業拠点 2ヶ国
タイ・インドネシア
- 営業拠点 3ヶ国
中国・マレーシア・インド (休眠中)

工具業界 ポジショニングマップ (上場企業)



※ 販売構成比の大小でプロット

FUJILLOY

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

03

成長への道筋と株主還元

中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高	166.7億円	170億円	190億円	200億円
営業利益	8.0億円	6.8億円	15.0億円	20.0億円
経常利益	8.8億円	8.5億円	16.0億円	21.0億円
経常利益率	5.3%	5.0%	8.4%	10.5%
当期純利益	7.0億円	5.9億円	11.5億円	15.0億円
ROE	3.5%	2.8%	5.5%	7.0%

2025年3月期 業績見通し

- 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果があったものの、自動車部品メーカーの在庫調整や中国経済の停滞に伴う売上高の減少の影響を受け、2024年11月14日に2025年3月期の業績予想を下方修正
- 海外向けの超硬素材販売が回復傾向

営業利益
6.8億円
 (前期比△15.9%)

(単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 第3四半期実績	2025年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,678	12,329	17,000	321	1.9%
営業利益	809	347	680	△129	△15.9%
(営業利益率)	(4.9%)	(2.8%)	(4.0%)	(△0.9%)	
経常利益	882	438	850	△32	△3.6%
(経常利益率)	(5.3%)	(3.6%)	(5.0%)	(△0.3%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	709	280	590	△119	△16.8%
1株当たり当期純利益	35.72円	-	29.68円	△6.04円	-
1株当たり配当額	32.0円	-	40.0円	8.0円	-
DOE	2.1%※1	-	4.0%※2	1.9%	-

※1 普通配当の金額で計算。記念増配（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

※2 2025年3月期のDOEは4.0%を目途に設定。

基本コンセプト：変化に対応できる企業体質への転換

① 経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

② 生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③ 海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④ 脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

重要施策① 経営基盤の強化

2025年3月期第3四半期までの進捗と今後の取り組み

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

データ化の推進

- **基幹システムを刷新**
(2024年10月1日稼働開始)
 - ・紙での管理⇒データ管理でペーパーレス化
検索性の向上により業務を効率化

ガバナンスの強化

- **品質保証本部を新設**
(2025年1月1日付)
 - ・安全で安定した生産体制を堅持し
高品質な製品づくりで企業価値を向上

人的資本投資の強化

- **新たな福利厚生を導入とEラーニングの拡充** (2024年6月～)
 - ・100年企業を目指し社員エンゲージメントの向上を目的に、新たな福利厚生を導入
 - ・Eラーニングのプログラムを拡充

環境・社会課題解決への貢献

- **初のサステナビリティレポートを発行** (2024年12月2日)

コーポレートブランディング

- **ブランディングプロジェクトを始動**
 - ・コーポレートサイトを全面リニューアル (2024年8月末)

取り組み

IT活用を含めた営業活動の強化など、さらなるデータ化を推進

重要施策② 生産性向上・業務効率化 2025年3月期第3四半期までの進捗と今後の取り組み

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

郡山製造所に新たな自動化ロボットを導入・本格稼働

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入
➡ 産出量10%向上
- 冶金工程の自動化ロボット
➡ 対応製品範囲を広げる改修を実施



研削加工自動化ロボット

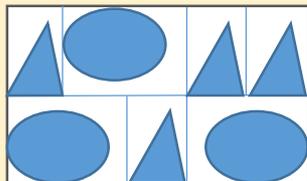


冶金作業自動化ロボット

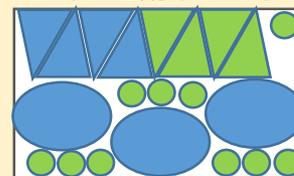
熊本製造所に自動加工ラインを導入・本格稼働

- 冶金工程にCAD・CAMを駆使したNC加工機による自動加工ラインを導入
平面加工における手作業 ➡ 自動加工への移管率60%
- CAD・CAMの自動ネスティング※を来年度の導入を目指してテスト中

※板材や棒材などから部品を効率よく取るための割り付けを行うこと



自動ネスティング



取り組み

自動化可能な工程の検討・導入を計画中
来年度、各工場の自動化を本格導入、省力・省人化を推進

2027年3月期 製造部門 原価率低減：3.0%ポイント
素材部門 生産性15%向上（2024年3月期比）

重要施策③ 海外事業の飛躍

2025年3月期第3四半期までの進捗と今後の取り組み

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

中国 富士模具：販売拠点

進捗 商材の拡充により新規顧客を獲得

- 東莞の新拠点を足掛かりに、商材を拡充
新規顧客の開拓に成功、販売を拡大
- 展示会で車載用カメラレンズ向けにガラス成型用金型材料【フジロイTR05】をPR

取り組み さらに知名度向上で
EV関連メーカーへの新規拡販強化

アセアン Fujilloy Thailand：生産/販売拠点

Fujilloy Indonesia：生産/販売拠点

Fujilloy Malaysia
：販売拠点

進捗 生産性が向上、製造ラインナップを拡充

- タイ：アセアンの生産拠点化
- インドネシア
：生産性が向上、現地企業との取引が拡大

取り組み メインの自動車関連や半導体関連の深耕
他業種もターゲットに新規顧客開拓を推進

北米

進捗 展示会に初出展、市場調査を推進

- シカゴで開催された展示会[IMTS2024]
に出展、現地にて市場調査

取り組み 北米での知名度向上を図り、潜在
需要獲得のため新規拡販活動を強化

インド

進捗 営業再開に向け、市場調査を強化

- 輸出ベースでの出荷額が増加傾向
- [IMTEX 2025（インド工作機械展）]に初
出展

取り組み 2027年3月期の営業再開を目指し
今夏に再開プロジェクトを発足予定

2027年3月期
目標海外売上比率：25%以上

重要施策④ 脱炭素・循環型社会への貢献

2025年3月期第3四半期までの進捗と今後の取り組み

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

次世代自動車



二次電池用工具・金型



モーターコア用
金型材種

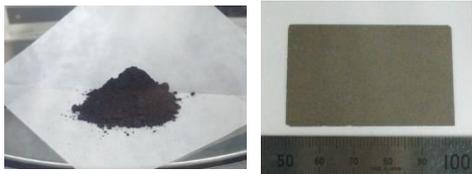
JIMTOF2024 (2024年11月)
モーターコア向け新材種
【フジロイ VG51】を発表

リサイクル



新規事業開発で
事業化を検討中

次世代エネルギー



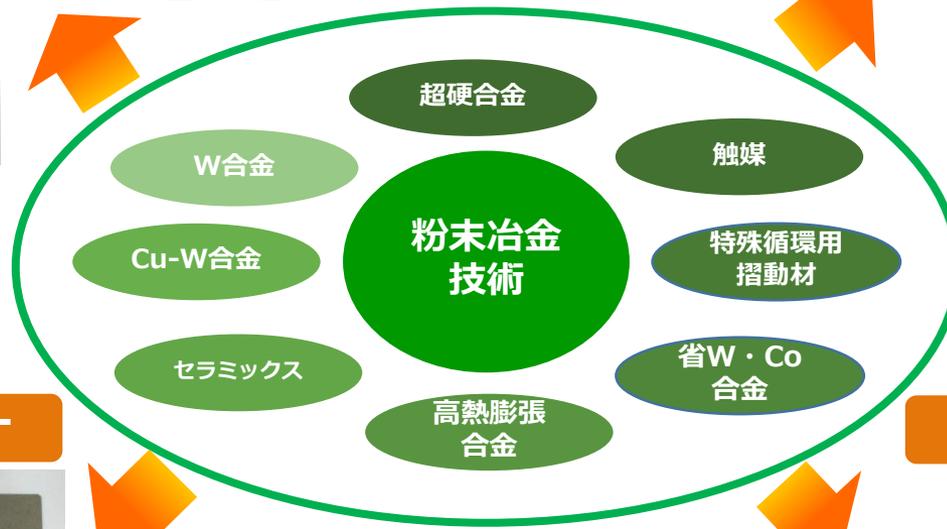
CO2還元用触媒 水素発生用触媒・電極
など

JIMTOF2024 (2024年11月)
新製品「グリーン水素向け電極」を発表

省資源



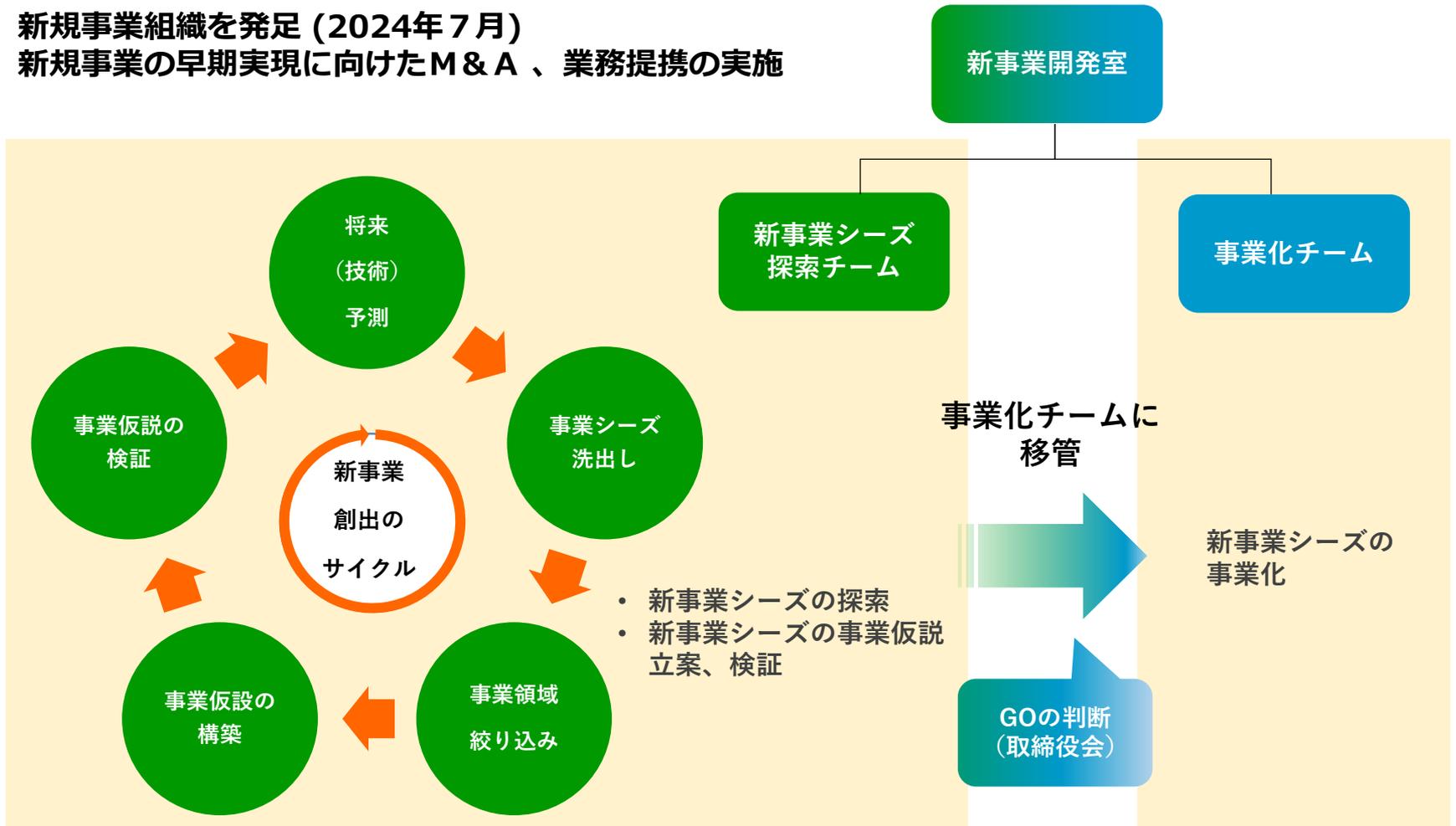
省タングステン・コバルト合金



中期経営計画2026：重要施策⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を発足 新事業シーズの事業化を加速

- 新規事業組織を発足 (2024年7月)
- 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施



目標指標

- ▶ ROE目標は株主資本コストを上回る水準を設定。
- ▶ 「中期経営計画2026」期間中は、配当の基準を配当性向からDOE（株主資本配当率）に変更、安定かつ株主還元を大幅に強化。

指標	目標（2027年3月期）	2024年3月期
ROE	7.0%以上	3.5%
PBR	1倍以上	約0.66倍 ※2
DOE ※1	4%目途	2.1% ※3

※1 DOE（株主資本配当率） = （年間配当総額 ÷ 株主資本） × 100

※2 2024年3月期末日の株価の終値（687円）で計算

※3 普通配当の金額で計算

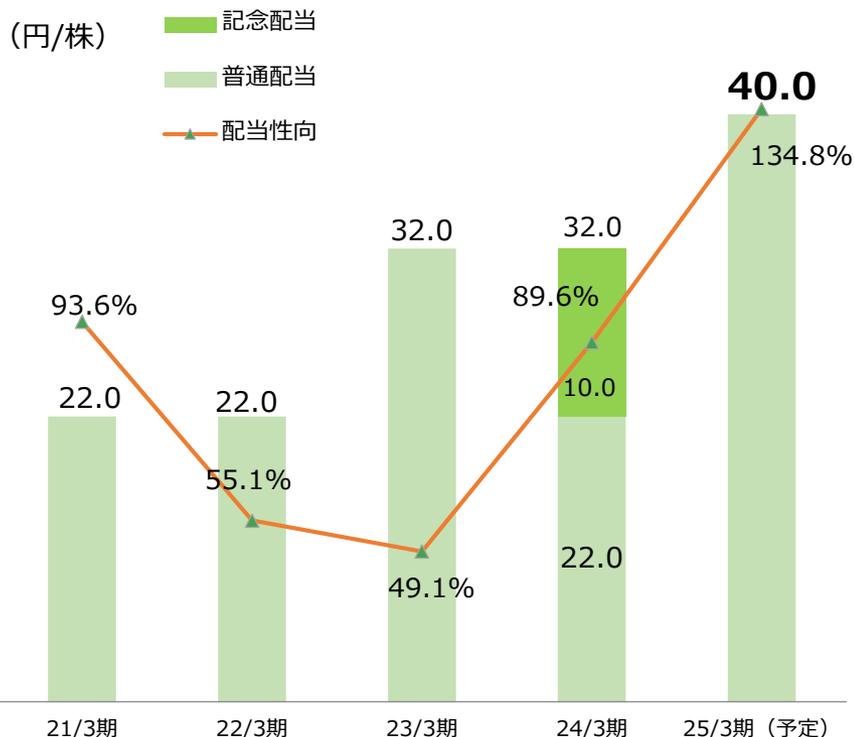
記念配当（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

2025年3月期 株主還元・配当

・ 2025年3月期は1株当たり40円
 【2024年3月期の1株当たり32円に対して、8円増配】

年間配当金
40円

配当方針の変更に伴い、2024年3月期の1株当たり32円に対して8円増配（普通配当で18円増配）の40円を計画



株価の動き

【2024年3月31日時点】

株価	687円
配当利回り	4.66%
時価総額	137億円



2024年5月23日に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み」を発表

【2025年2月21日時点】

株価	793円
配当利回り	5.04%
時価総額	158億円

株価
 15%
 アップ

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページのご紹介

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページに業績ハイライトや開示資料を掲載



当社コーポレートサイト
<https://www.fujidie.co.jp/>

ぜひ、ご高覧ください

04

APPENDIX

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- ◆ 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- ◆ 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

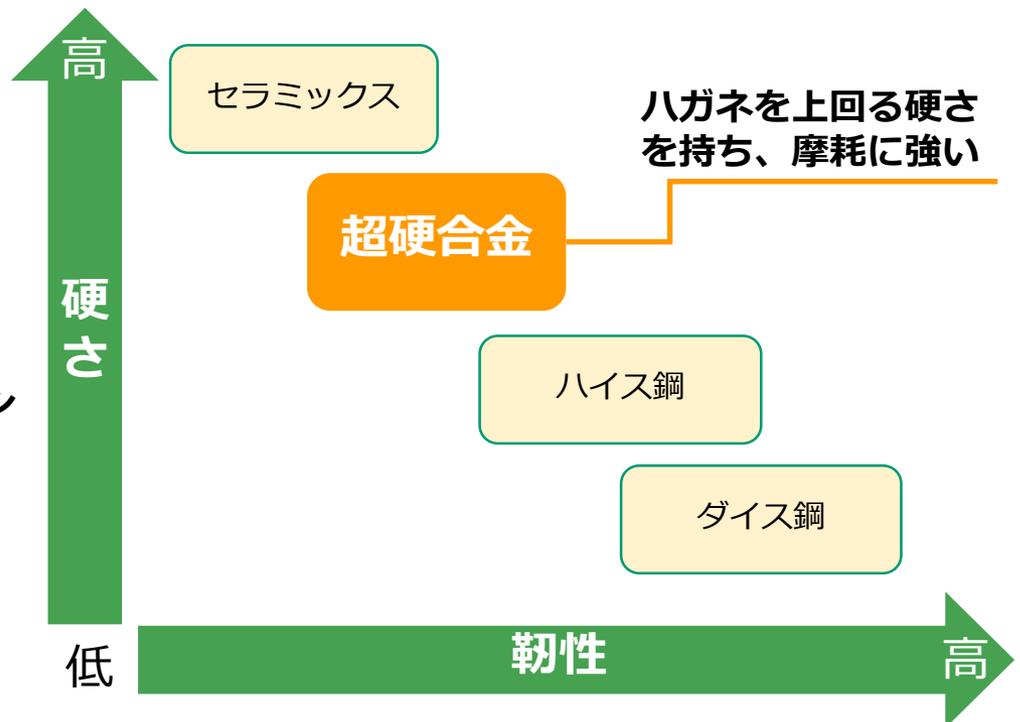
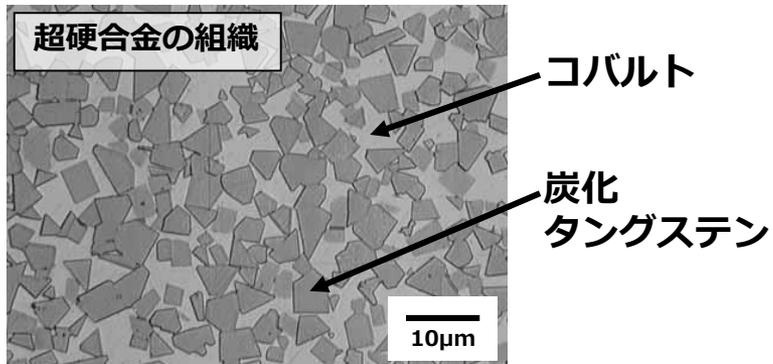
- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

超硬合金とは

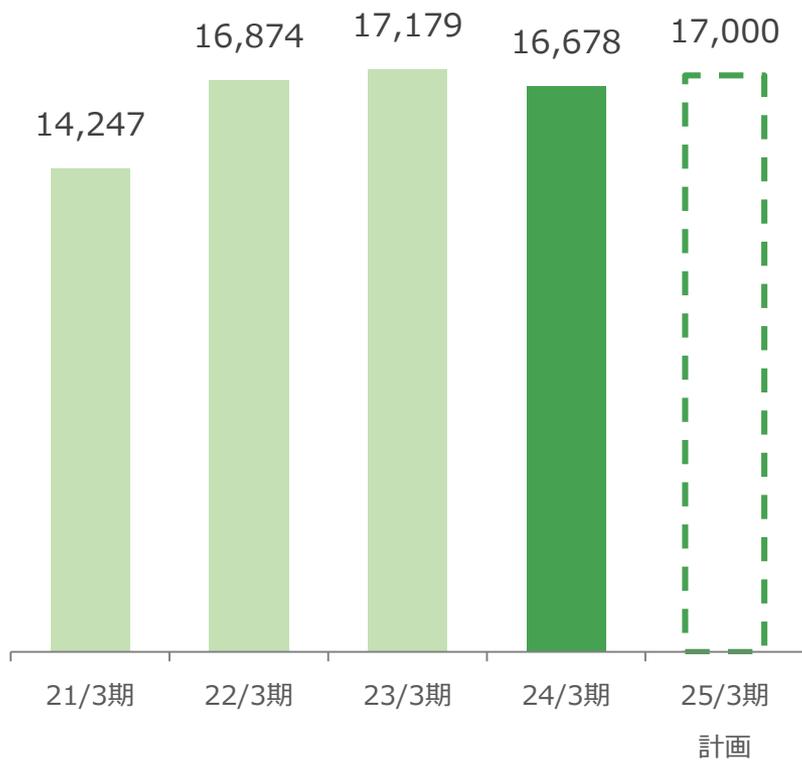
- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



業績の推移 1/3

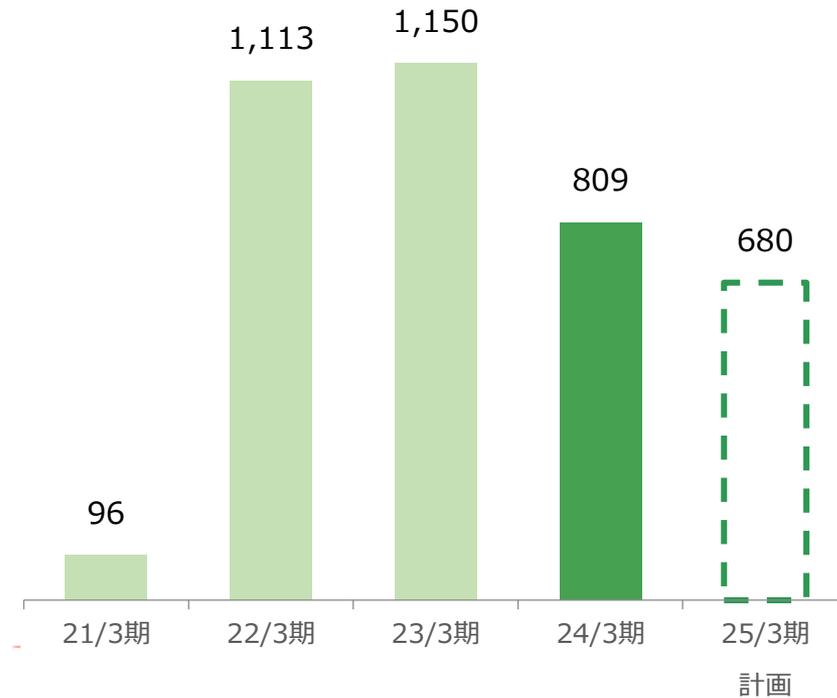
売上高

(百万円)



営業利益

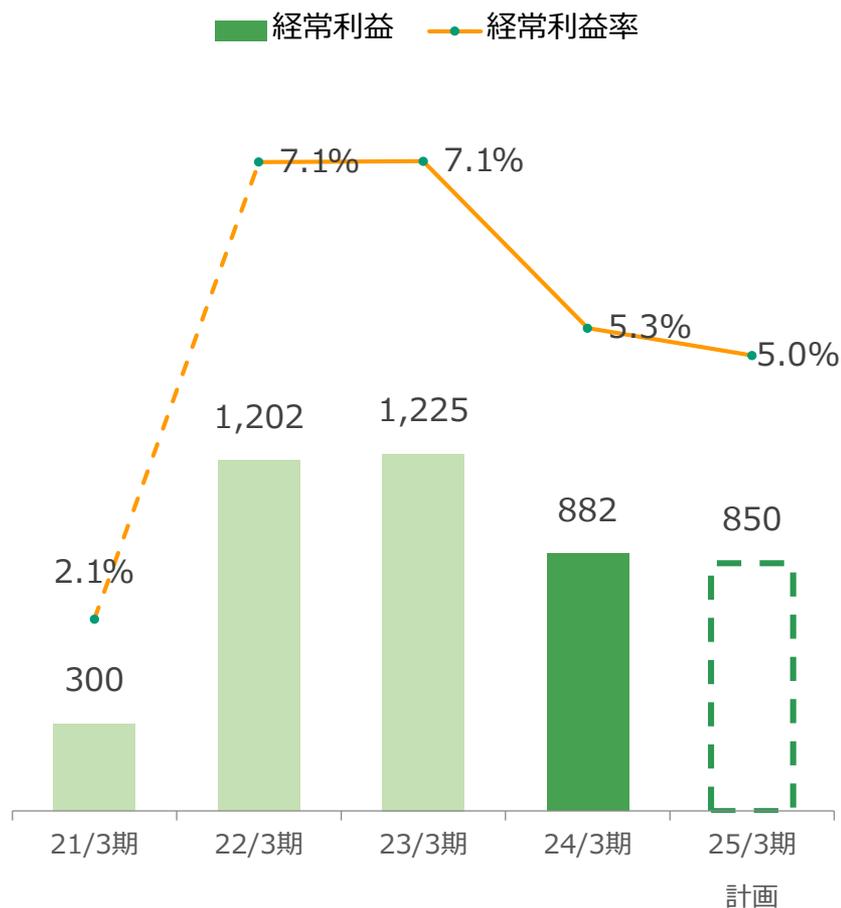
(百万円)



業績の推移 2/3

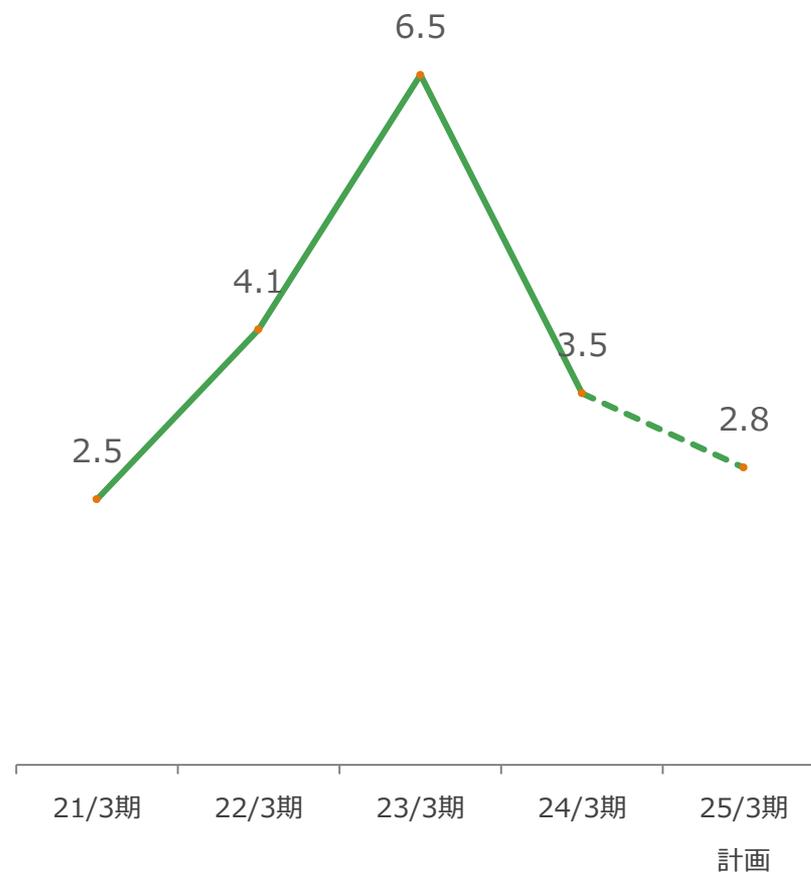
経常利益

(百万円)



ROE

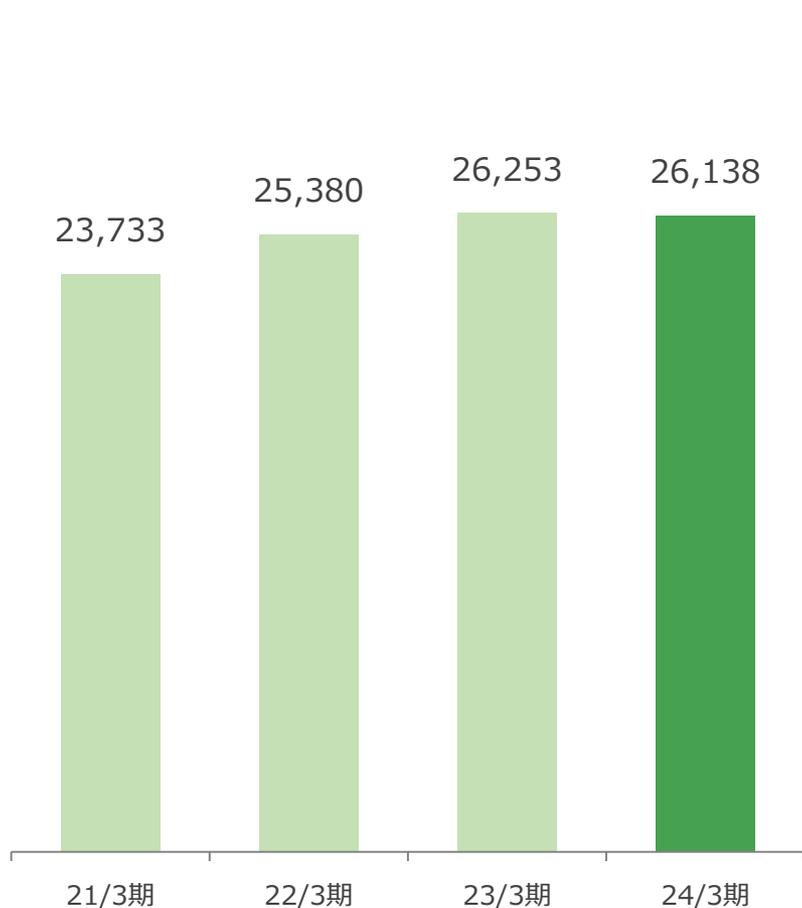
(%)



業績の推移 3/3

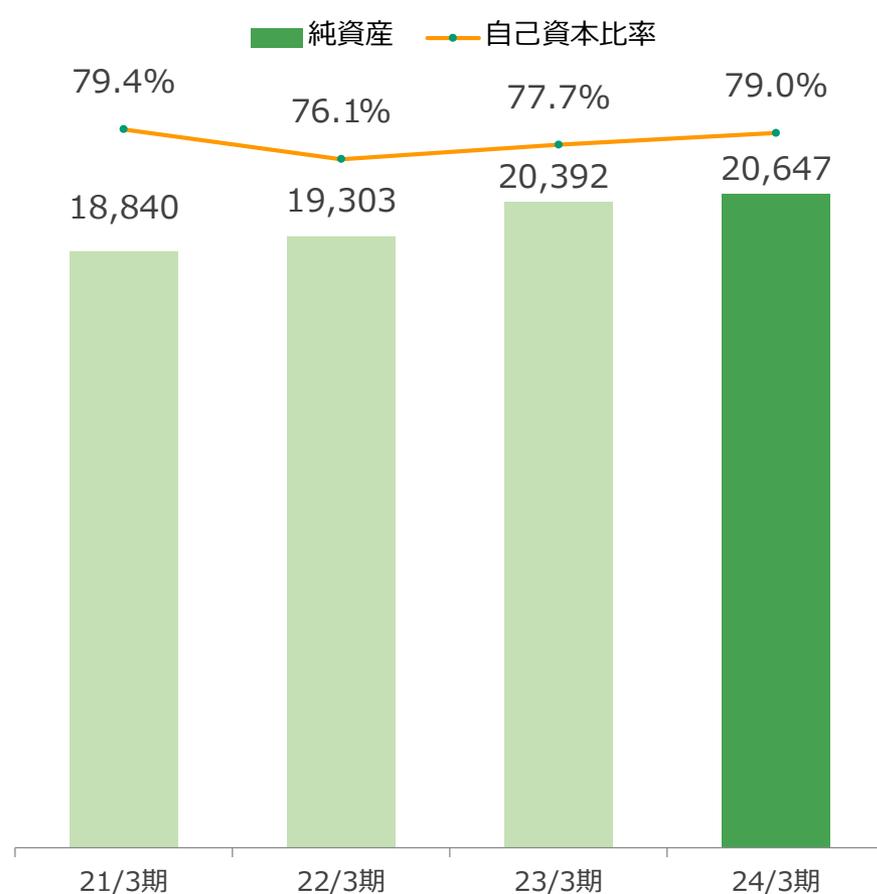
総資産

(百万円)



純資産

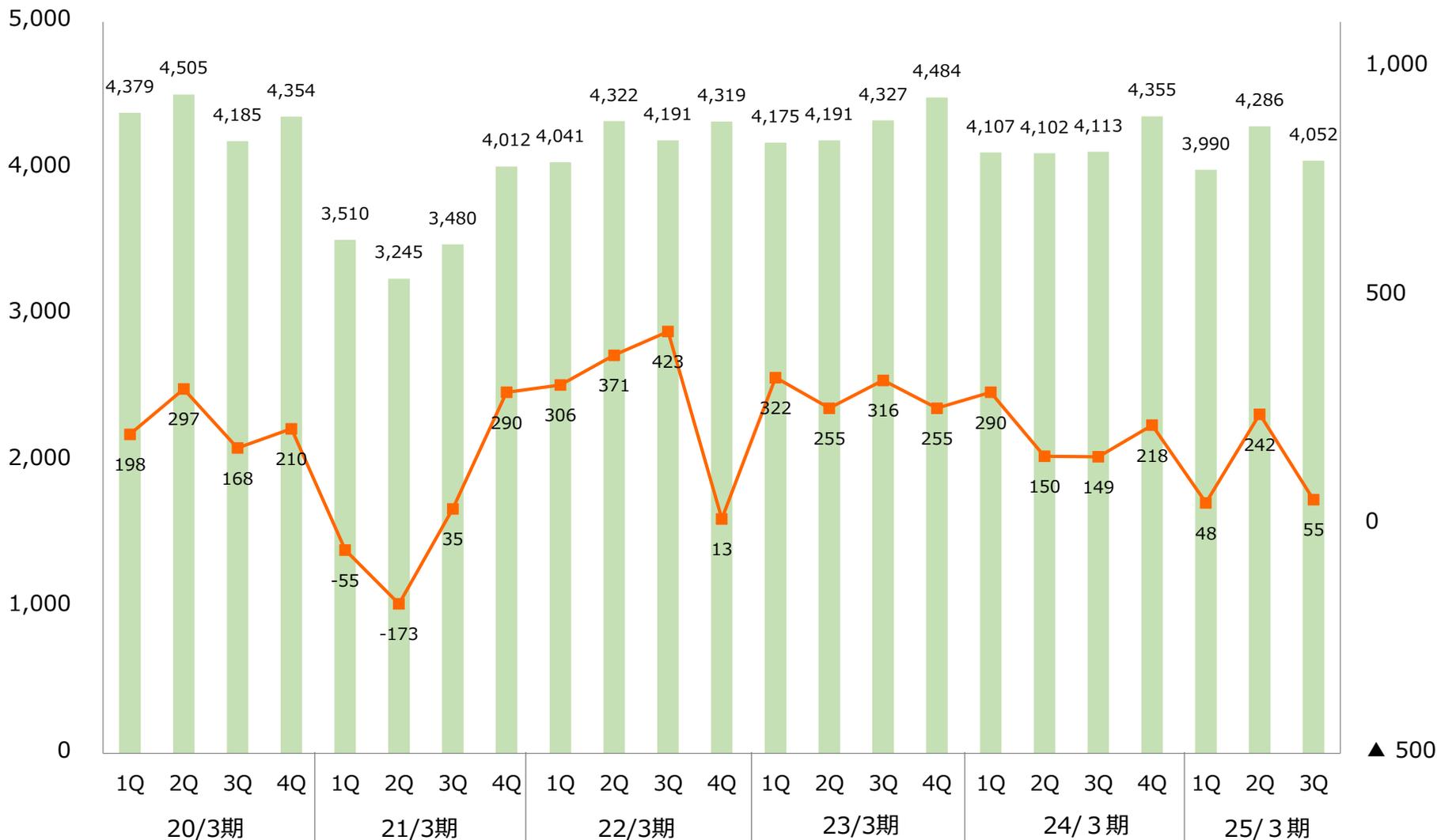
(百万円)



連結四半期業績推移

売上高 営業利益

(単位：百万円)



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。